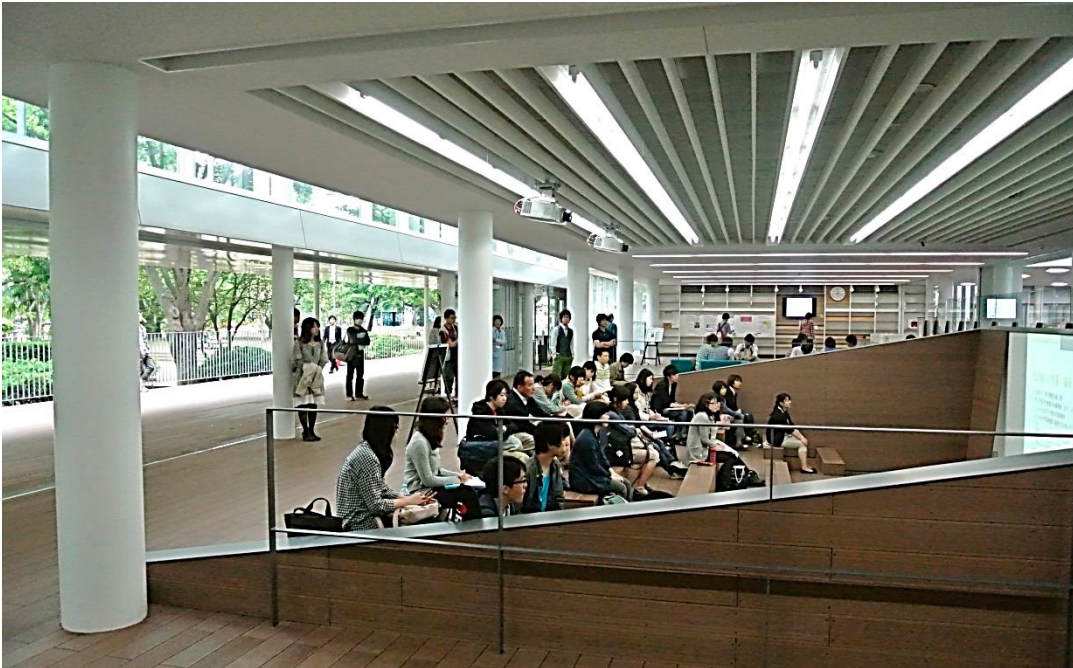
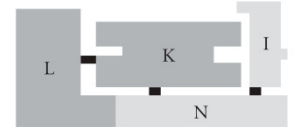
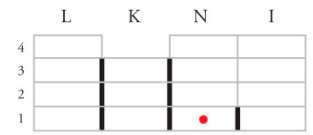


# 「見る」「見られる」「見せる」をキーワード とした「考える学生」を育成する場の創出

西千葉キャンパス アカデミック・リンク



エントランス部分にあたる N 棟 1 階に、様々なセミナーやイベントが行われるプレゼンテーションスペースを設置  
通りがかりの人も自由に見て、参加できるよう、オープンなつくりとなっている



エントランス

L 棟 Learning  
黙考する図書館

K 棟 Knowledge  
知識が眠る図書館

N 棟 Networking  
対話する図書館

I 棟 Investigation  
研究・発信する図書館

L、K、N、I の 4 つの棟で構成されている

## 【ポイント】

### 「見る」「見られる」「見せる」を意識した整備

#### 相互刺激を生む開放的な空間整備

- 自由な活動を促す間仕切りのない大空間を整備。
- 声は聞こえないが活動の様子を室外から「見る」「見られる」ことが刺激になるよう、グループ学習室はガラスで間仕切り。
- 多様な学習スタイルに対応するため、グループ活動エリアのすぐそばに窓際学習空間を配置。
- 4 つの棟ごとの段差が生じないように改修。



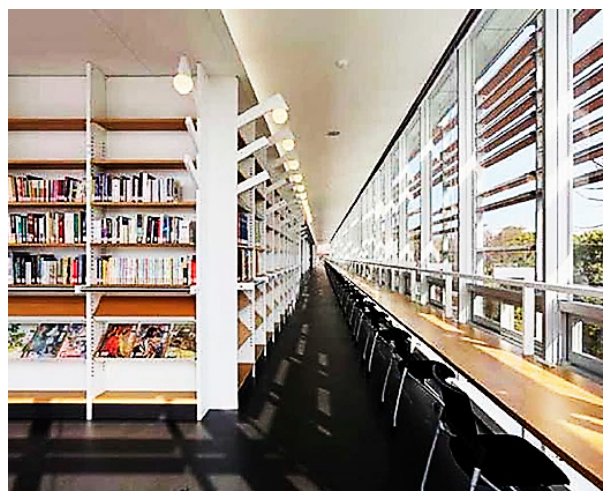
N 棟 4 階 ガラスで仕切られたグループ学習室

#### 様々なかたちの資料や情報を提供

- ブックツリーは「見せる」本棚としてテーマに沿って図書を配置。
- 授業の参考図書、web サイトを案内する「授業資料ナビゲータ」の提供。

#### 充実した人的サポートの提供

- 図書館員による調べもの相談の対応。
- 教員による学業、大学生活全般に対する相談の対応。
- 40 名程度の学生が ALSA (Academic Link Student Assistant) として運営サポート、学習支援を実施。



N 棟の開放的な空間を実現する東西 2 本の階段室の壁を利用したブックツリーと、かたらいの森を望む窓際学習空間

## 整備による効果

### 学習時間の増加

（「3 時間以上」が 4.4 ポイント増

一方、「全くしない」が 8.2 ポイント減）

- 学部学生の図書館滞在時間、学習時間が増加。

### 学習行動の変化

- 学生が多様な環境の中から好みの場所を選択して学習している。思考の共有により理解が深まった、共同学習が連鎖して広がった、議論の活性化、議論に集中できる等、多様な学習行動の変化がみられている。

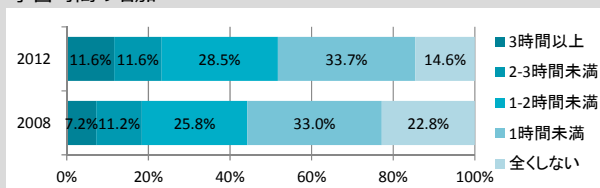
### 学生の満足度の変化

（考える力が「十分/ある程度身についた」が 7.1 ポイント増）

（ハード面に対して「満足」が 21.4 ポイント増）

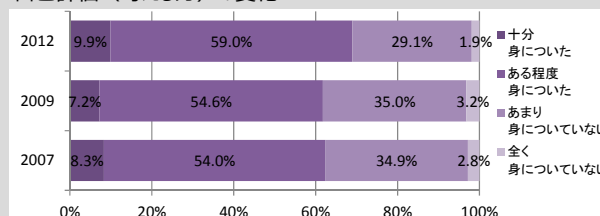
- 自身の学びに対する自己評価（考える力、情報収集・処理能力等）が向上。
- 図書館のハード面に対する満足度が大幅に向上。

学習時間の増加

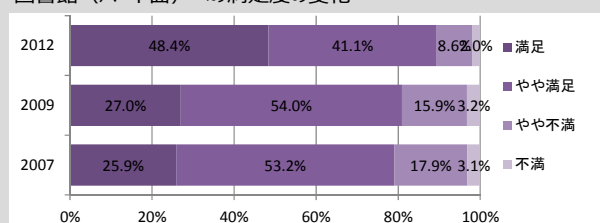


出典：学生生活実態調査報告書

自己評価（考える力）の変化



図書館（ハード面）への満足度の変化

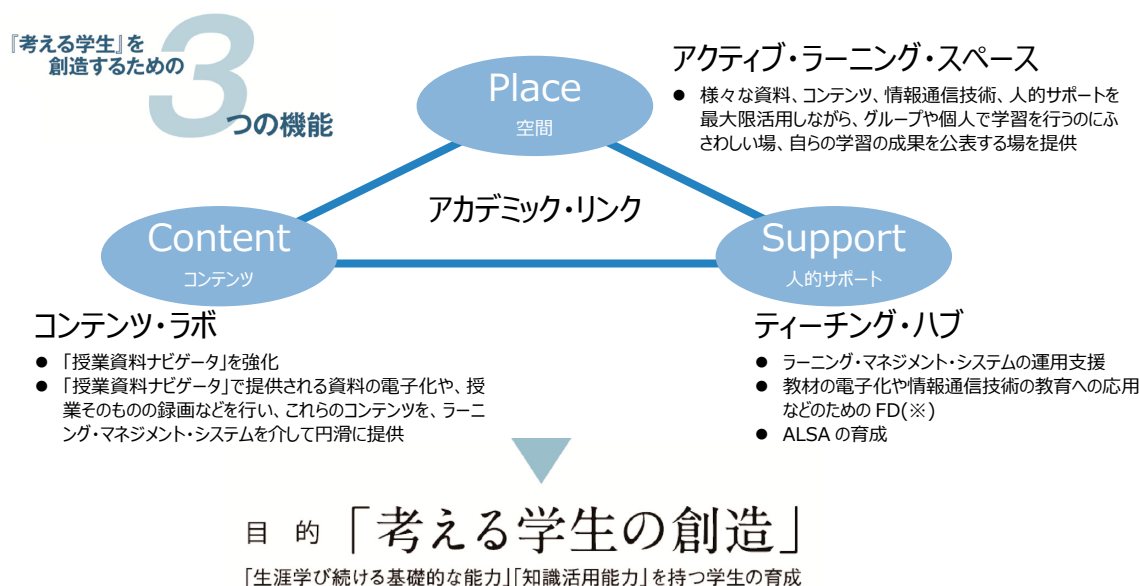


出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書

## 整備の背景・目的

- 知識基盤社会を生き抜く力をもつ「考える学生の創造」を目的とし、「コンテンツと学習の近接による能動的学習の促進」により実現する場としてアカデミック・リンクが整備された。

（※）FD（ファカルティ・ディベロップメント）：  
全学的に、あるいは学部・学科全体で、それぞれの大学の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修を行うこと



## 更なる展開

### FD・SD 活動の推進

- 教育・学修支援専門職に必要な研修プログラムの開発、実践的 SD（スタッフディベロップメント：職員的能力開発）教育プログラムの運営等の取組を進めている。

### 人的サポートの認知度向上

- 学習支援デスク等のサポートについて、学生の認知度が低いものがあるため、利用拡大のための効果的な広報を検討している。